2017.07

スーリールファム通信

かながわコミュニティカレッジ講座

「空き家を活かそう！ まちの交流拠点をデザインする」 第3回目

「たがやせ世田谷」（東京都世田谷区）

2017年7月。

「梅も買ったし、梅仕事したい！」そんな土曜日。

一瞬、サボろうかしら…と、思ったけど…。ガンバって行って良かった！

前半は世田谷区「一般財団法人世田谷トラストまちづくり」の「家や庭を地域へ活かすまちづくり」事業ついて。

後半は、世田谷区で空き家活用に事業として取り組んでいる株式会社アンディートの安藤勝信さんのお話。

現在の事業に至る経緯については興味深いものでした。

時代の先端でビジネスマンとして活躍されていた当時、高齢のご家族をめぐる問題を通して、ご自身の仕事や生き方に疑問を持ち始めたときのお話は、毎日ギリギリで働いている私たち現役世代の一人ひとりに思い当たる、切ないエピソードでした。

さて、その後、180度転換して安藤さんがスタートさせた現在の事業は、スーリールファムが目指したいところと近い。

いや、ほぼ同じ！　違うのは、私たちに物件がないところだけ。

あ、ここが一番大きい違いですね。

何より、きちんと事業が成り立っているということが素晴らしいと感じ入りました。

ところで、「福祉」って何か？　というお話が出たのですが、「高齢者」とか「障害者」とか、「介護」とか「してあげること」とか。

そんなイメージを思い浮かべる方が多いと思うのですが、…私もそうでした。

でも、実は「＝幸せ」なんですって（広義な意味で）。

知らなかった～。

目からウロコ！

法律や制度、サービスの線引きが、いつの間にか私たちの頭の中まで引かれているようです。

また、例えば、地域のカフェで映画の上映会を食事付きで2000円で企画するとします。

普段から「消費者」の立場に馴染みがある私たちは、必ず「2000円に見合うか？　オトクカ？　ソンシテナイカ？」と、満足度を考えずにいられません。

しかし、価格設定をしないで「食事はみんなで持ち寄りにしましょう」という提案にすると、来るのは主催者に協力する「参加者」。

そうなんです！

「消費者」から「参加者」へ。

「マインドセットのゆるやかなシフト」が必要というお話は、得心のいくものでした。

かつてないほどの勢いで、急激な高齢社会へ突入する日本。

これからは自分たちで、自分たちの住む地域を元気にしていかねば、誰もやってくれない、ということになるでしょう。

誰かに文句を言う、なんてことも、そのうちできなくなるかもしれません。

安藤さんのプレゼンが、非常に洗練されていて伝わるものだったのですが、実際はいろんな人たちと、問題・課題について、ガチンコしてきたことが伺われます。

終了後に「今度ぜひ見学に伺いたい！」とご挨拶。

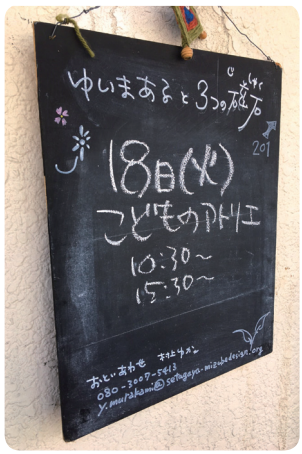
厚かましくも記念撮影までお願いしてしまいました。

右は世田谷トラストまちづくりの角屋さん、左は安藤さん

後日、副理事長の三浦さんとともに「たがやせ世田谷」を訪問

デイケア施設として生まれかわった木造賃貸アパート（モクチン）の1階部分では、利用者の皆さんが、ボランティアさんたちによる催し（影絵、バイオリン演奏）を楽しんでいらっしゃいました。

2階は子どもたちが集まって工作などを楽しむスペースとして貸出。



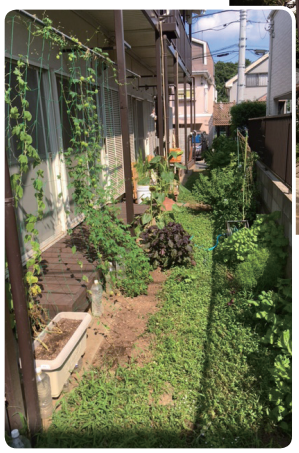
建物の壁、西日を遮るようにのびているのは「ホップ」。

地ビールを造るグループの方々によって植えられているそうです。

建物裏を登っていくと農作物が実る畑です。

近所の保育園の子どもたちがここで農作業体験をして作物を育てているのだとか。

何もかもが楽しげに目に入りますが「いろんな方とたくさんケンカしてますよ。失敗もたくさんあります」と安藤さん。



見学のお礼を言い、バスに乗って成城学園駅前へ。

都会のこんなすぐそばに、長閑な田園風景がひろがっている。

しかし、オフィス街への通勤者が新たに居を構えるには、駅から徒歩25分は確かに不便に相違ない。

「働き方改革」が盛んに言われていますが、多くの方が通勤を必要としない状況になるには、まだまだ時間がかかるのかもしれません。

（※注：講座については藤原個人の感想です）